







には238名が参加し、歌声がダイレクトに被災地に届くのではないかと思います。このプロジェクトを推進した佐々木香さんが冒頭に「一人一人が心を込めて歌うことが大切」と話して参加者の気持ちをさらに強固にし、録音第1テイクの前に作曲者の谷川賢作さんがピアノの前で、災害で亡くなられた方への「黙禱」を主導、完全な静寂の中から感動的に前奏が始まりました。アイリッシュ・フルートの豊田耕三さんを先導するように、新たにピアノだけの2小節が加わっていました。この日、豊田さんは練習とは違う独創的なメロディーを奏しました。熱い「気」を感じました。改めて谷川さんの音楽の素晴らしさと凄腕に感謝しました。Voicekの飯島さんがブログに「総理大臣にしたいくらい!!!」と感嘆。同感です。「同じ目的で集った一期一会の皆さんのために、今日だけのために、作ってきました」と地震への語り掛けを始め、全員が力強く唱和しました。途中、ピアノを強烈に叩き付ける谷川さん。フリージャズの手法で、地震への皆の思いをぶつけました。祈り、怒りが交錯していました。温かく語りながら、もう暴れないで!と。全てが終わった時、谷川さんを讃える拍手が鳴り止みませんでした。「万歳! 谷川賢作さん!」この日、慶應ワグネルソサエティー男声合唱団OBも参加。最友好団体である早稲田グリークラブOBの私にとっても嬉しい参加でした。??



?? CD製作経費の為に集ったカンパはこの日までに276,489円で、第一目標の35万円まであと一息です。(写真はカンパを呼びかけるZEROキッズの子供たち)?? 第6回ラトビア大使館サロンコンサート ?ラトビアの元外務大臣(女性)とも懇談? 5月16日夜、渋谷区のラトビア大使館で、同大使館と日本ラトビア音楽協会が共催する6回目のサロンコンサートを行いました。冒頭、ヴァイヴァルス駐日大使の呼びかけで、震災で亡くなられた方々への黙禱を捧げ、ピアニストの風呂元佳苗さんから協会関連音楽家5人が、それぞれラトビアの音楽を演奏して心豊かな一夜を楽しみました。詳細と写真は別ページに掲載しますが、この日ゲストとして参加されたラトビア共和国の元外務大臣、サンドラ・カリニエ女史を取材(というより懇談)する機会がありました(通訳はラトビアでは知らない人がいない日本人、黒沢歩さんをお願いしました)。現在はEU議会のラトビア代表議員として活躍中で、今回、EUの対日交流議員団の一員として来日し、長期間、被災地の人々と親しく交流を深めています。同議員は、日本人たちが災害に強い気持ちで耐え、根気よく、極めて前向きに生きている姿にとても感動されていました。早い復興を確信していること、その為にEUとしても最大限の支援をしたいなどなど、一民間の日本人に対しても、極めて誠実な表情で話しておられました。原発事故と命がけで闘っている作業員を日本の英雄と讃えています。ラトビアは災害直後いち早く、小国としては多額の義援金を日本に送りました。また有名ナリガ大聖堂で「日本救援祈禱集会」が行われ、後半に日本を愛する多く

---

の音楽家が演奏して、ここでも義援金が集められました。私自身もラトビア人の友情と熱い気持ちを強く感じていますが、第一線にいる政治家に直接触れると、一人一人の深い思考、決断力、外交力に感嘆させられます。どこかの国の政治家とは少し違うかなと…（日本ラトビア国会議員友好連盟会長の中曽根弘文議員も見えていたから大きな声で言えませんが）。？ サロンコンサートについてもいろいろ感想を頂きました。「日本の歌手が美しい着物姿で、ラトビア人の心を代表する歌を歌ってくださったことがとても嬉しかった。こんなコンサートが定期的に行われ、ラトビアと日本の友好の輪がどんどん広がっていることが感動的です」。私が「ラトビアの歌を歌う我々の合唱団“ガイスマ”は、ラトビアの民族衣装で歌っています」と話すと、「（衣装は）どうして手に入れたのですか？」「基本的に女性メンバーが自分達で作りました」など会話が弾む中、驚きを全身で表現されていました。